

平成31年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	5	講習名	【選択】日本史（歴史）教育に地域史研究の成果をどう活かすか				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
鈴木 康之	広島キャンパス	6 時間	中学校社会科・ 高等学校地理歴史科教諭	30 人	講義	筆記	
開催日	8月3日（土）		予備日	8月10日（土）			
<p>【到達目標】 日本史（歴史）教育の素材となる歴史資料の最新の研究成果にもとづき、中世瀬戸内の港湾集落をめぐる物流の構造を理解している。</p>							
<p>【講習の概要】 地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現することを求めている学習指導要領に対応するため、広島県地域を対象とする最新の研究成果（草戸千軒町遺跡を中心とする中世の港町と物資の流通に関する研究）を紹介しながら、新たな知見を日本史（社会科）の授業の展開にどのように活かしていくのかを考える。</p>							
<p>【講習の内容】</p> <p>講義 1：草戸千軒町遺跡の発掘調査 広島県福山市に所在する草戸千軒町遺跡の30年余にわたる発掘調査の経緯をたどることによって、中世遺跡の発掘調査成果が日本の中世社会に対するイメージをどのように描き替えてきたのかを明らかにする。また、具体的な研究成果にもとづいて中世考古学という学問領域の特質を示すととともに、現在の埋蔵文化財保護行政が抱える課題についても言及する。</p> <p>講義 2：生活を支えた物資の流通 草戸千軒町遺跡の発掘調査で明らかになった集落の施設（井戸・溝・建物などの遺構）を紹介し、かつては「草津」と呼ばれた港湾集落の姿を復原する。さらに、出土した多様な生活用具（土器・陶磁器、木製品、石製品、金属製品など）から、集落を拠点に活動した人々の日常生活や生業活動の実態を復原し、日本列島各地から東アジア世界におよぶ地域の製品がこの集落にもたらされ、人々の生活を支えていた実態を明らかにする。</p> <p>講義 3：港湾集落と地域社会 草戸千軒町遺跡の出土資料や、関連する文字資料などを手がかりに、この集落がどのような性格を有していたのかを解明していく。さらに、この集落と地域社会との関係へと議論を展開させることにより、瀬戸内海沿岸に立地した多くの港湾集落が相互にどのような関係を結んでいたかを明らかにする。</p> <p>講義 4：瀬戸内海をめぐる水運のネットワーク 「兵庫北関入船納帳」は兵庫津（現在の神戸港）を通過した商船に課せられた通行税の徴税台帳で、15世紀中頃の瀬戸内海における商品流通の実態を知ることができる稀有な資料である。この資料を手がかりに当時の瀬戸内海水運を復原するなかから、文字資料に残らない人や物の動きがあることを見いだす。同時に、そこに草戸千軒町遺跡の研究成果を援用することにより、瀬戸内海における水運ネットワークが構造的に把握できるようになることを示す。</p>							
<p>【備考】 試験の際には、配布した講義資料、ノートの持ち込みを認めます。</p>							